

熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ【第1回】

○日程：令和6年7月6日（土）14:00～16:45

○会場：荒川公民館 3階ホール ○主催：熊谷市河川課

○論点：【論点1：方針】 【論点2：範囲】 【論点3：ゾーニング・主要機能配置】 【論点4活動の展開】

○本日のテーマ：①ヒアリング結果を確認しよう

②論点1への意見を出そう、③論点3・論点4を検討しよう

■プログラム ファシリテーター：澤田俊明(徳島大学客員教授)、アドバイザー：田中規夫(埼玉大学教授)

時間	項目	備考
14:00 (15分)	1 チェック・イン ・開会、挨拶 ・本日の予定 ・アイスブレイク ・ワークショップについて（目的、テーマ、ルール）	■全体進行 熊谷市 澤田
14:15 (15分)	2 情報共有その1（かわまちづくりの概要） ・かわまちづくり計画の背景、市民アンケート結果 5分 ・かわまちづくり基本方針（素案）と4つの論点 10分	■全体進行 いであ 熊谷市
14:30 (40分)	3 情報共有その2（事前ヒアリングの結果） ・現地利用状況について（P21～25） 10分 ・地域課題について （P26～29） 10分 ・かわまちづくりについて①（P30～32） 10分 ・かわまちづくりについて②（P32～37） 10分	■全体進行 いであ
15:10 (10分)	4 ワークショップ 1）個人で考える：意見カードを書こう！ ※名前記入 ・論点1（方針）：【緑】素案に賛同、【ピンク】素案に懸念、【黄】その他 ・論点2（範囲）・論点4（活動・活用のアイデア）： 【青】必要・実施、【ピンク】懸念、【黄】その他	■全体進行
15:20 (10分)	休憩	
15:30 (10分)	2）全体で確認：論点1（方針）への意見カード	■全体進行
15:40 (45分)	3）グループで検討：論点2（範囲）、論点4（活動・活用）	■グループ
16:25 (10分)	4）グループ発表 ・各グループ発表 ・アドバイザーコメント	■全体進行
16:35 16:45	5 チェック・アウト ・連絡事項 ・挨拶、閉会	熊谷市

■資料

（添付資料）

- ・プログラム（第1回）、WS参加者のみなさんへ
- ・資料1 熊谷市かわまちづくりワークショップ要領（案）
- ・資料2 情報共有その1（かわまちづくりの概要）
- ・資料3 情報共有その2（事前ヒアリングの結果）
- ・資料4 今後のスケジュール

（別冊資料）

- ・別冊1 かわまちづくりの概要（情報共有その1の資料）
- ・別冊2 熊谷市アンケート結果
- ・別冊3 熊谷市「かわまちづくり」への意見、事前ヒアリングの結果（情報共有その2の資料）

WS（ワークショップ）参加者のみなさんへ

●WSの2つの目的

1. かわまちづくりへ、アイデアや意見を出そう
2. かわまちづくりで、仲間をつくろう

●WSでの2つのお願い

1. 積極的に、自分の意見を述べよう
2. 積極的に、他の参加者の意見を聞こう

●WSのルール（多くの人が集まる場）

- ・ルール1：意見の存在は認める = 否定はしない
（背景）多様な見方、多様な環境：意見の違い → 正常な状態
- ・ルール2：ワークショップは、個人資格での参加とします

（参考）合意形成とは

多様な価値の存在を認めながら、人々の立場の根底に潜む価値を掘り起こして、その情報を共有し、お互いに納得できる解決策を見いだしていくプロセスのこと

※合意形成マネジメント協会（代表：哲学者・桑子敏雄氏、熊谷高校出身）

熊谷市かわまちづくりワークショップ要領（案）

（目的）

ワークショップは、熊谷市かわまちづくりに対する要望・意見の収集や、当事業に対する地域の主体的な参加意欲の向上を図るための社会実験の準備及びふりかえり（評価、課題抽出）のために行政関係者の他、広く市民の意見を反映させるためにワークショップを組織し、社会実験の実施案を決定することを目的としたものです。

（対象者／組織体制）

ワークショップは、公募制にて招集した参加希望者（行政、市民、関係団体他）をもって組織します。かわまちづくりの方針や計画を決定する協議会との関係は、下図の通りであり、ワークショップでは協議会に対し意見・要望、具体のアイデア出しを行うものです。

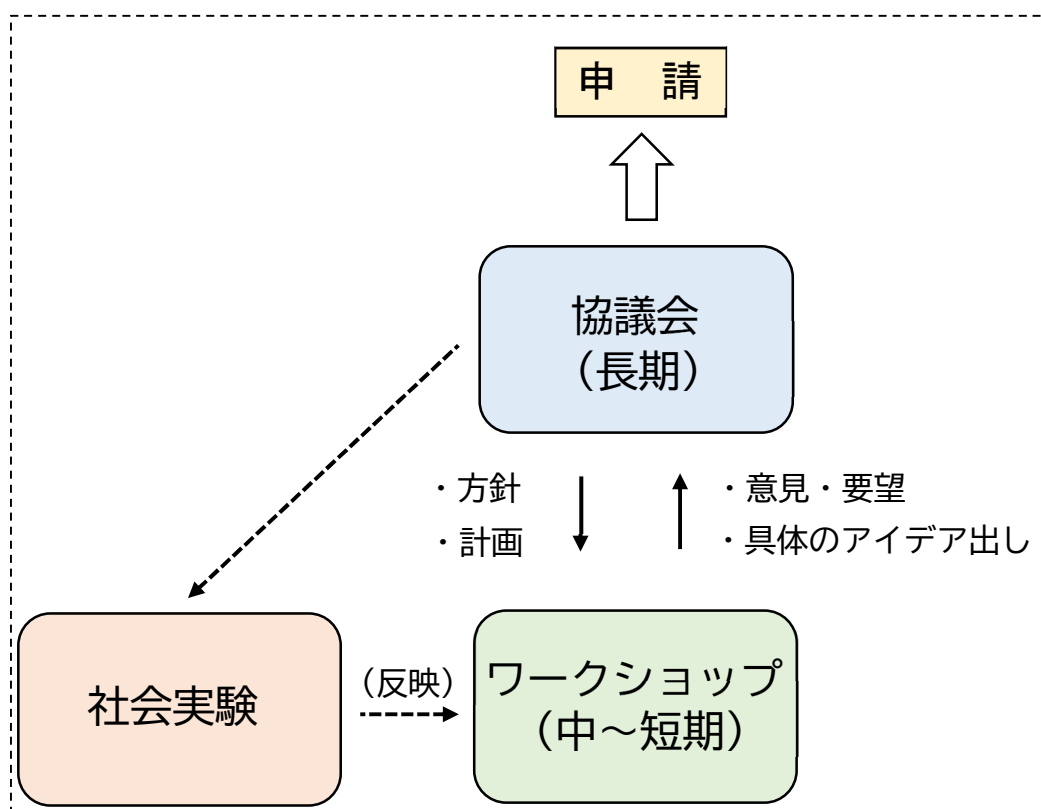


図1 WS位置づけのイメージ

（ルール）

ワークショップは、ファシリテータと公募した行政、市民、関係団体他により実施します。原則、他人の意見を否定することは控え、幅広い意見を求めるものとします。

熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ 情報共有その1(かわまちづくりの概要)

令和6年7月

熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ 事務局

1) 計画の背景(かわまちづくり)

➤ かわまちづくり計画の目的

- ・近年、河川空間は水辺の持つ自然環境や親水空間としての機能が見直され始め、全国でまちづくりに水辺を活用する「かわまちづくり」の取組が広がっています。
- ・「かわまちづくり」は、「河川」とそれに繋がる「まち」を活性化するため、地域の景観、歴史、文化、観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、**市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した賑わいある良好な空間形成を目指すもの**です。

➤ かわまちづくり支援制度（平成21年度創設 令和5年8月時点：264地区登録）

- ・必要なハード・ソフトの整備に対し、河川管理者の支援が受けられる「**かわまちづくり支援制度**」が創設されています。
(主に、まちづくりと一体となった**治水及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備、民間の営利活動が可能**となる「都市・地域再生等利用区域の指定」の支援)
- ・令和6年度より、「**水辺整備**」と自然環境を保全・創出する「**自然再生**」の一体的な取組や、こどもが安全に自然に触れられる「かわまちづくり」を促進する制度に改訂されています。



1) 計画の背景(計画の位置づけ)

➤ 計画対象エリア

- ・ 図中a～gは関係者ヒアリングで対象範囲に関する意見のあった場所を示しています。
- ・ 関係者へのヒアリングによる地域ニーズや実現性を踏まえ、コアエリアと将来活用エリアを設定しました。

A-2	計画範囲	・ 現案(荒川大橋～グランド)がやりやすい範囲と考える	a
		・ 対岸(右岸)エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・ 熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要(荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等)	c
		・ 駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・ かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化(歩行者動線)する視点が重要	d
		・ 富士山が見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。	e
		・ 荒川大橋から久下橋までの区間を舟下り等できたりすると良い	f
		・ 河川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g

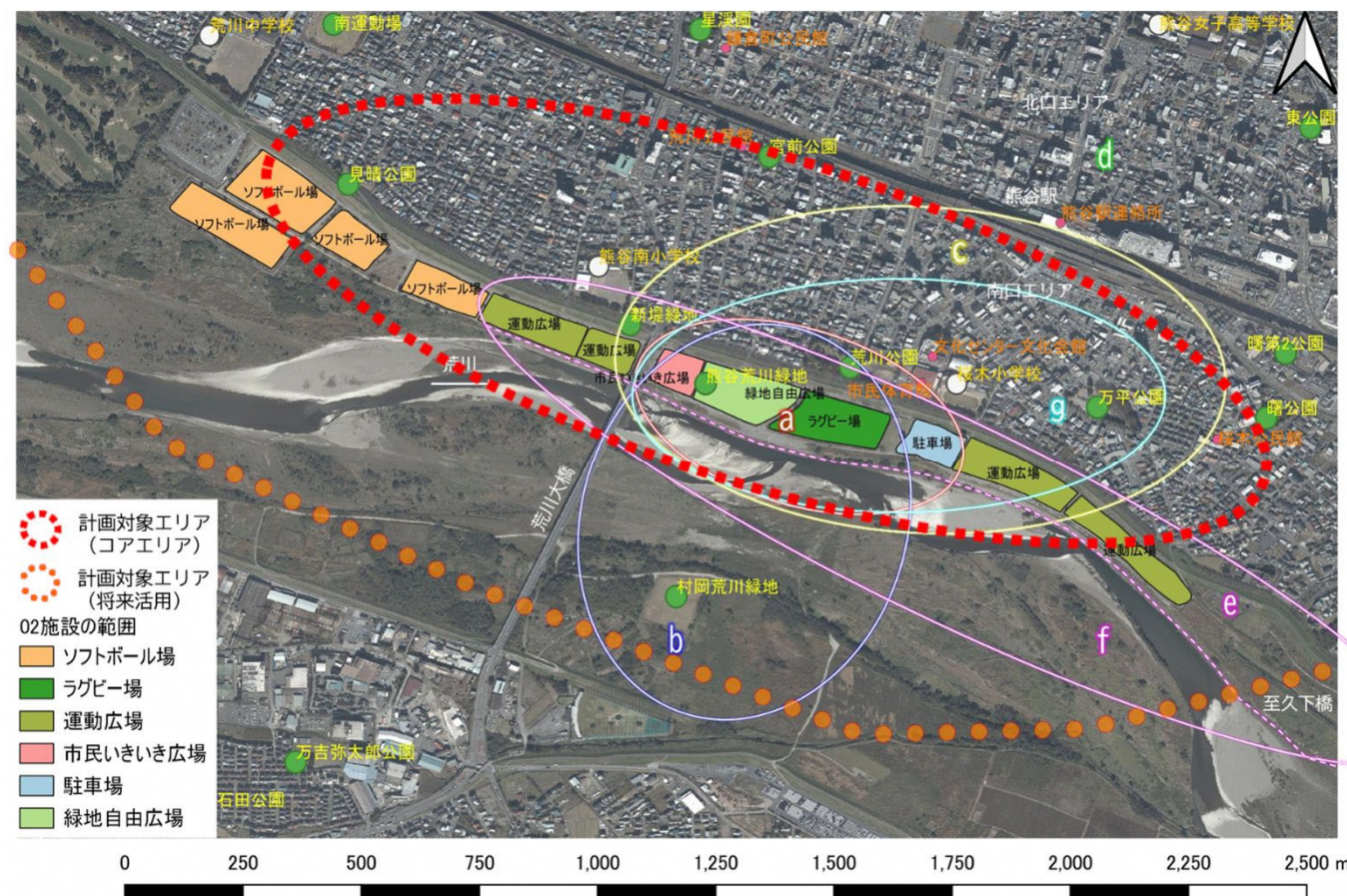
(参考資料「ヒアリング結果」かわまちづくりの意見)

コアエリア

複数の意見区分が重なるエリアで、
当事業の核として位置付けるエリア

将来活用エリア

複数の意見を包括した範囲で、当事業の効果が様々なかたちで期待できるエリア



2) 地域ニーズ(市民アンケート調査)

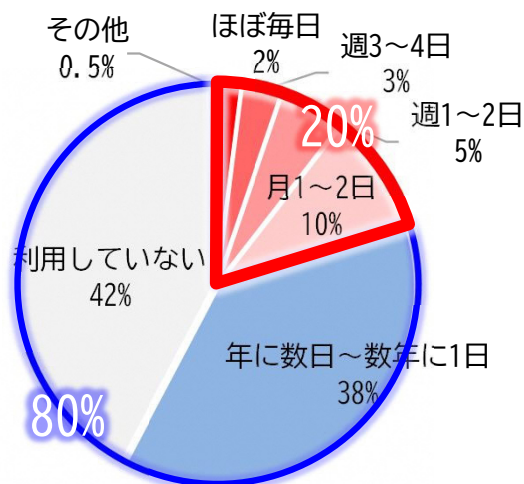
➤ 市民アンケート調査結果概要

- ・ 期間 : 2023年11月20日～2023年11月30日
- ・ 対象 : 熊谷市内の在住者
- ・ 調査方法 : Webモニターアンケート
- ・ 回答数 : 400人

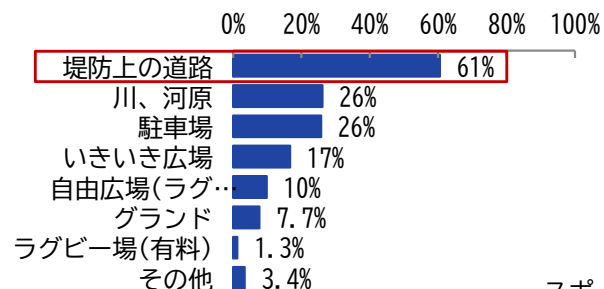
➤ 対象エリアの利用状況

- ・ 対象エリアを月1～2日以上利用している人が約20%、年に数日～数年に1日以下の人が約80%と利用頻度が少ない。
- ・ 利用者の約50%が堤防上の道路を散歩やジョギング利用や、お祭り・イベント利用を目的としている。

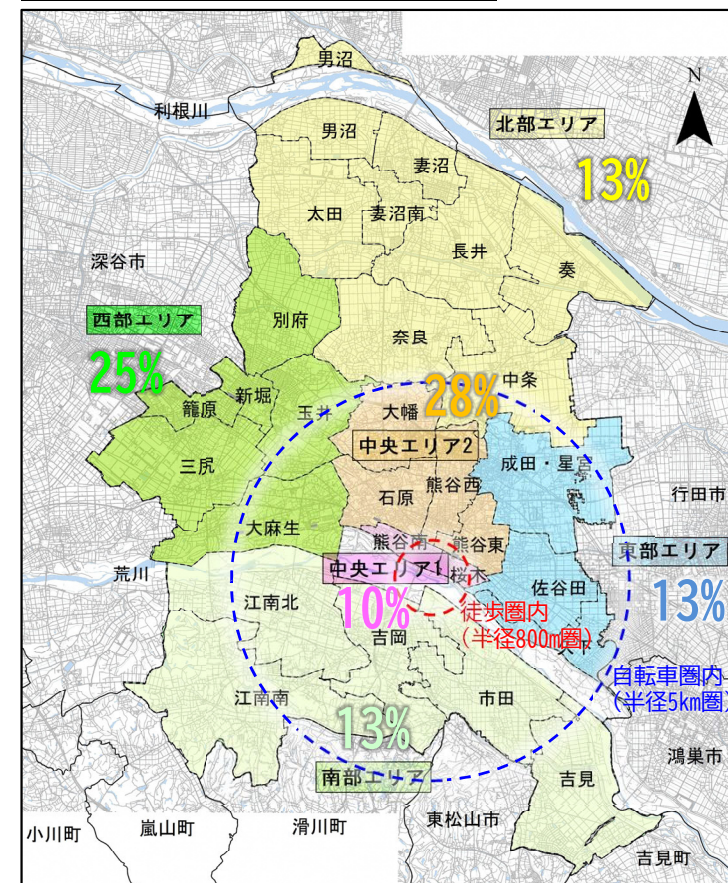
Q. 対象エリアの利用頻度 (n=400)



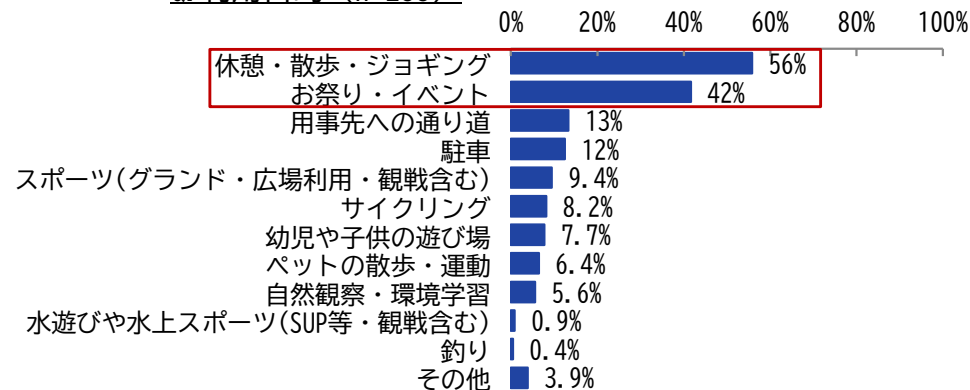
Q. 対象エリア内の利用場所 (n=233)



Q. 回答者属性(居住地) (n=400)



Q. 利用目的 (n=233)



2) 地域ニーズ(市民アンケート調査)

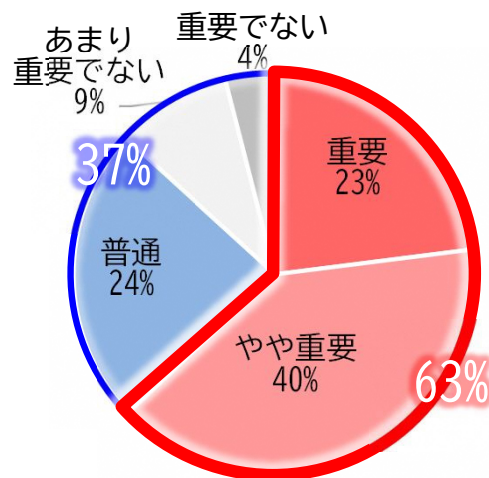
➤ 魅力について

- 河川空間へのニーズは、「**散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実**」や「**休憩施設の充実**」、「**駐車場や坂路の整備**」のニーズが高い。

➤ かわまちづくり計画について

- 対象エリアの水辺空間の活用が熊谷市の活性化に**重要と考えている人が約60%と半数以上**である。
- かわまちづくり計画に期待することとして、「**安心・安全に暮らせるまちの推進**」を1位で選ぶ人が最も多く、防災への関心が高い。第1～3位の合計の回答が多い項目として、順に「**快適で暮らしやすいまちづくり**」、「**環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進**」が選ばれている。

Q. 熊谷駅周辺の賑わい創出や魅力の向上に、荒川の水辺空間の魅力を活かす取組みは重要だと考えるか。
(n=400)



Q. 対象エリアの魅力の充実に向け、良くなってほしいこと (n=400)

	1位	2位	3位	合計
散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実	65	65	35	165
休憩施設の充実(ベンチ、東屋など)	56	57	44	157
駐車場や坂路の整備	45	44	56	145
ゴミ対策や治安対策	47	36	34	117
夏場の暑さを和らげる親水施設の充実(せせらぎ水路・水遊び場など)	24	32	42	98
市民の憩いの場の充実(マルシェ、地域イベント、カフェ)	29	27	39	95
子供の遊び場の魅力の充実	34	22	25	81
バーベキューやキャンプの利用	26	22	27	75
自然との共生、環境学習の充実	15	26	33	74
バリアフリー環境の充実(スロープ、手すり、多機能トイレ)	19	29	20	68
スポーツ利用の魅力の充実、スポーツ文化の発信拠点	18	18	20	56
ドッグランなどペットとの触れ合いの魅力の充実	10	10	10	30
水上スポーツや釣りの魅力の充実	5	8	11	24
その他	7	4	4	15

Q. 熊谷市荒川かわまちづくり計画に期待すること (n=400)

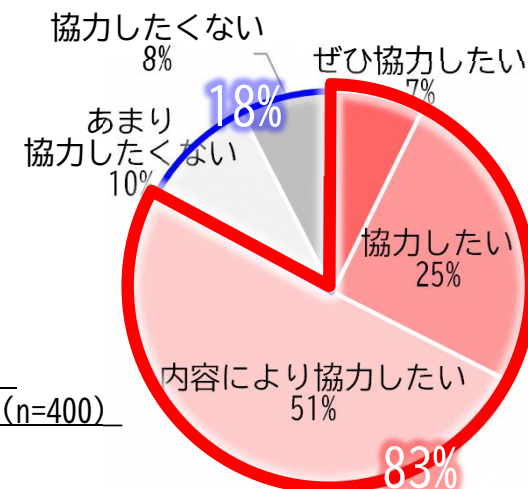
	1位	2位	3位	合計
安心・安全に暮らせるまちの推進	150	56	53	259
快適で暮らしやすいまちづくりの推進	50	73	60	183
環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進	43	45	59	147
活気と賑わいのある魅力的なまちの推進	48	49	33	130
子供、高齢者、障がい者等の誰もが暮らしやすいまちの推進	29	65	27	121
市民の健康づくりの場の推進	23	47	35	105
スポーツの魅力や文化の発信	14	15	52	81
子育て支援の環境づくりの推進	25	25	27	77
地域の文化・歴史の継承	9	10	26	45
地域コミュニティづくりの推進	6	12	25	43
その他	3	3	3	9

2) 地域ニーズ(市民アンケート調査)

➤ 協力意向

- ・魅力ある河川空間の充実や維持のためのイベント開催や維持管理へ
約80%の市民から協力的な意向が示されている。

Q. 魅力ある河川空間の充実や維持のため、
イベント開催や維持管理への協力意向 (n=400)



※小数点以下四捨五入のため総計が100%とならない

➤ 自由意見

意見区分	意見数	主な意見の概要 ※()内の数値は意見数を示す
河川空間の利活用に関する意見	64	防災・治水対策(9)、自然環境の維持、創出(8)、親水・川遊び(6)、祭り・イベントの開催(4) 健康増進・散歩・ジョギング(4)、釣り(4)、アクセスの充実(動線、公共交通、渋滞改善)(4) 施設・トイレの整備(4)、駐車場の整備(3)、誰もが過ごせる・利用したいと思える場づくり(3) 子供が川遊びできる等(3)、堤防道路や河川敷地内の歩行者の安全対策(3) アウトドア・スポーツを楽しむ場(3)、ある場所の有効活用(3)、桜並木の保全維持(2) 公園樹木の保全(1)
まちづくりの方向性	13	賑わい、魅力、行きたいと思えるまちづくり(4)、自然豊かな景観を活かしたまちづくり(3) 独自性・永続性、未来を見据えた開発(2)、来訪者を呼び込むまちづくり(1) 誰もが楽しめるまちづくり(1)、誰もが安全安心なまちづくり(1)、よりよいまちづくり(1)
管理・マナー対策	9	適正な管理、増水時の対応(4)、治安維持(3)、ゴミやマナー対策(2)
計画づくりの進め方	9	市民・住民意見の反映、市民のための計画づくり(5)、市民への説明、関心(4)
河川空間の利活用への参加意向	6	参加協力したい(3)、清掃・美化運動の市民参加の環境づくり(3)
税金、予算	7	税金の使い方、有効な活用(5)、予算確保の方法(2)
その他	3	何も期待していない(1)、利用することはない(1)、大麻生方面にも力を入れてほしい(1)
合計	111	備考：289人は特になしと回答

3) かわまちづくりの基本方針(事務局案)

➤ 地域課題

・課題1：熊谷らしさ（地域の魅力）の充実、情報発信、まちへの愛着の醸成

地域資源を活かす（水辺の魅力、観光資源、自然環境、歴史文化）

・課題2：都市拠点の魅力・活力の充実による定住促進、多様な人の交流拡大

熊谷駅南口周辺には駐車場等の低未利用地が多く点在。

人口減少の更なる深刻化の抑制に向け、都市拠点としての必要な魅力（活力・教育・文化）、利便性（ユニバーサルデザイン）を備え、健康に暮らせるまちの環境整備の充実が必要。

・課題3：荒川の豊かな自然環境の保全と継承

地球温暖化対策（「ゼロカーボンシティくまがや」の宣言への対応、暑さ対策）

荒川の自然環境の保全と継承、自然環境保全の担い手確保

子どもたちが安全に荒川の自然環境と触れ合える空間の充実が必要

・課題4：かわ・まち・駅空間の一体的な安全・安心まちづくり（ハード・ソフト）

浸水リスク（浸水深0.85m 家屋倒壊等氾濫区域（想定最大規模））への対応。

気候変動の深刻化、高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化に対応し、想定を超える災害への備えの充実、流域治水の取組推進、自助や共助の意識向上が必要。

3) かわまちづくりの基本方針(事務局案)

論点1

➤ 熊谷市荒川かわまちづくりの目標・方針

地域と共創、地域の安全安心への寄与のもと、荒川の豊かな自然環境の保全と継承に配慮し、スポーツや健康づくり、自然との触れ合いを通じた新たな交流が生まれることによる地域の活性化、熊谷らしさやつながりが感じられる空間創出と、地域の方々の日常利用の充実により、まちへの愛着の醸成、定住促進を目指します。

➤ 熊谷市荒川かわまちづくり方針

対応方針

基本方針1 地域と共創

地域との共創により、地域の魅力、愛着と誇りを育むかわまちづくりを目指します。

※課題1、2、3対応

整備方針1-1 熊谷らしさ、つながり

- ・熊谷らしさ(水辺やまちの魅力、観光資源、自然環境、歴史文化)を活かし、地域の魅力を充実する空間づくりを目指します。
- ・多様な世代の人との出会いと交流を育む憩いの空間の創出を目指します。

整備方針1-2 地域振興・健康づくり

- ・荒川の自然の中で、誰もが自由にスポーツや健康づくりを楽しむ空間の創出を目指します。

整備方針1-3 自然環境・風景

- ・荒川と山並みによって創り出す美しい風景を守るとともに、生物多様性の保全や温室効果ガスの吸収等に寄与する都市空間における貴重な緑地・水辺空間である荒川の豊かな自然環境を保全・継承します。
- ・未来を担う子供たちが荒川の自然環境と触れ合える空間を充実し、自然環境を守り育てる担い手づくりを目指します。

基本方針2 安全・安心

地域の安全・安心に寄与します。

※課題4対応

整備方針2-1 安全・安心

- ・堤防整備(嵩上げ・拡幅・側帯盛土)により、洪水時の災害リスクを減らし地域の防災力を高めます。

整備方針2-2 水害・災害学習

- ・過去の水害の歴史、災害リスクを学習し、災害を自分事化し、地域の防災・減災対策を地域と行政が一体となって考え、取り組むことを目指します。

3) かわまちづくりの基本方針(事務局案)

論点2

➤ 計画対象エリア

- ・ 図中a～gは関係者ヒアリングで対象範囲に関する意見のあった場所を示しています。
- ・ 関係者へのヒアリングによる地域ニーズや実現性を踏まえ、コアエリアと将来活用範囲を設定しました。

A-2	計画範囲	・ 現案(荒川大橋～グラウンド)がやりやすい範囲と考える	a
		・ 対岸(右岸)エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・ 熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要(荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等)	c
		・ 駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・ かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化(歩行者動線)する視点が重要	d
		・ 富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。	e
		・ 荒川大橋から久下橋までの区間を舟下り等できたりすると良い。	f
		・ 河川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g

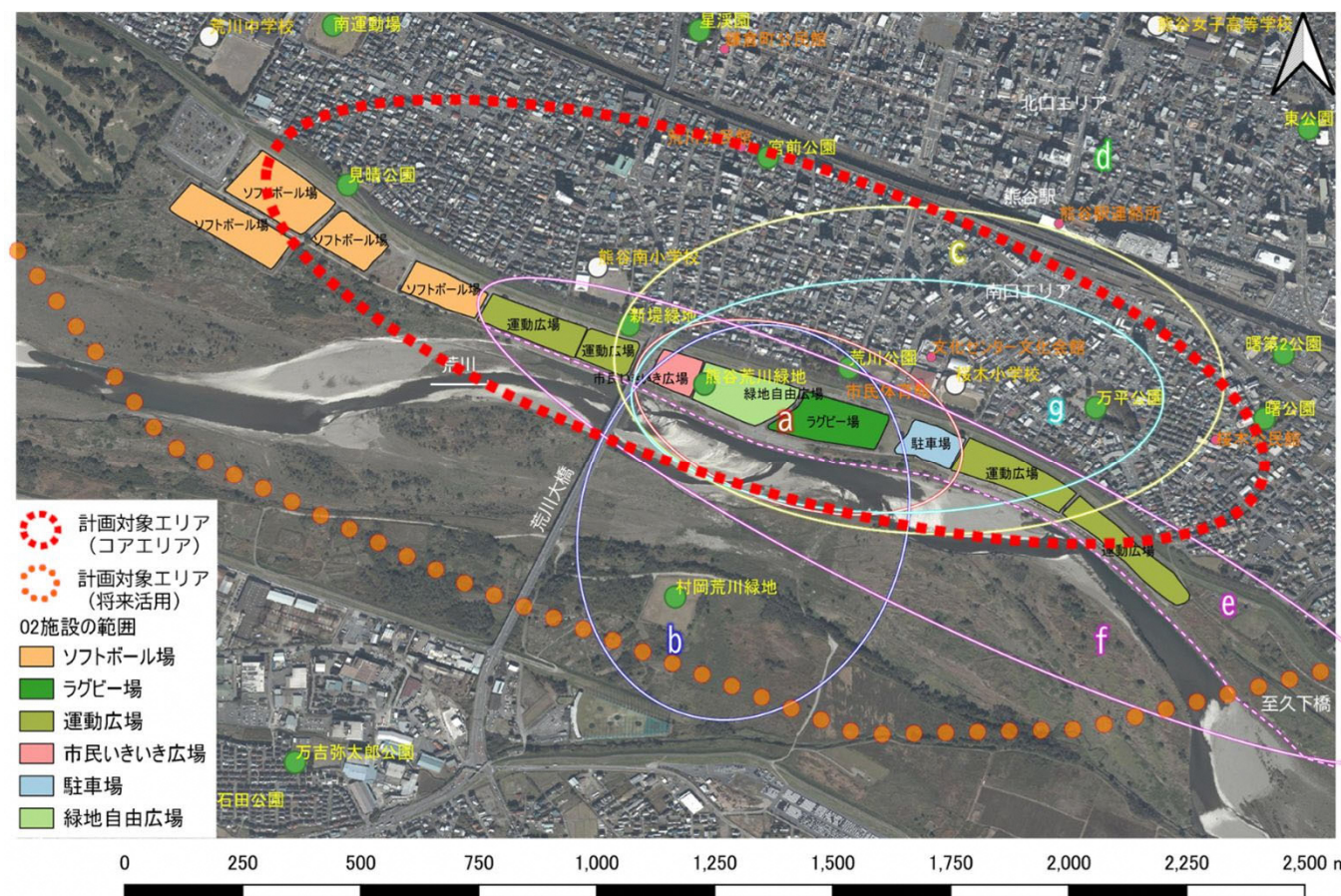
(参考資料「ヒアリング結果」かわまちづくりの意見)

コアエリア

複数の意見区分が重なるエリアで、
当事業の核として位置付けるエリア

将来活用エリア

複数の意見を包括した範囲で、当事業の効果が様々なかたちで期待できるエリア



4) 検討プロセス

➤ 「熊谷市荒川かわまちづくり」で議論すべき論点(案)

議論の場：かわまちづくり協議会、ワークショップ等

論点1：方針

- ・計画地周辺の河川環境、まち環境をもとにどのような方針を示すか。
- ・論点1は、論点2に相互に影響する。

論点2：かわまちづくりの範囲

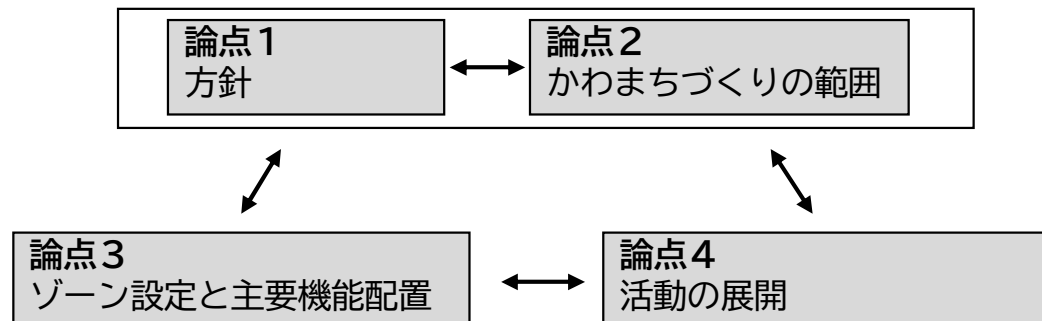
- ・計画地周辺の「かわ」のもつポテンシャル、「まち」のポテンシャルを保全し、活用するために望ましいかわまちづくりの範囲をどのように設定するか。
- ・論点2は、論点1と相互に影響する。論点2は、論点3、論点4に影響する。

論点3：ゾーン設定と主要機能配置

- ・論点1、論点2からどのようなエリアのゾーン設定を行い、主要機能を配置するか。

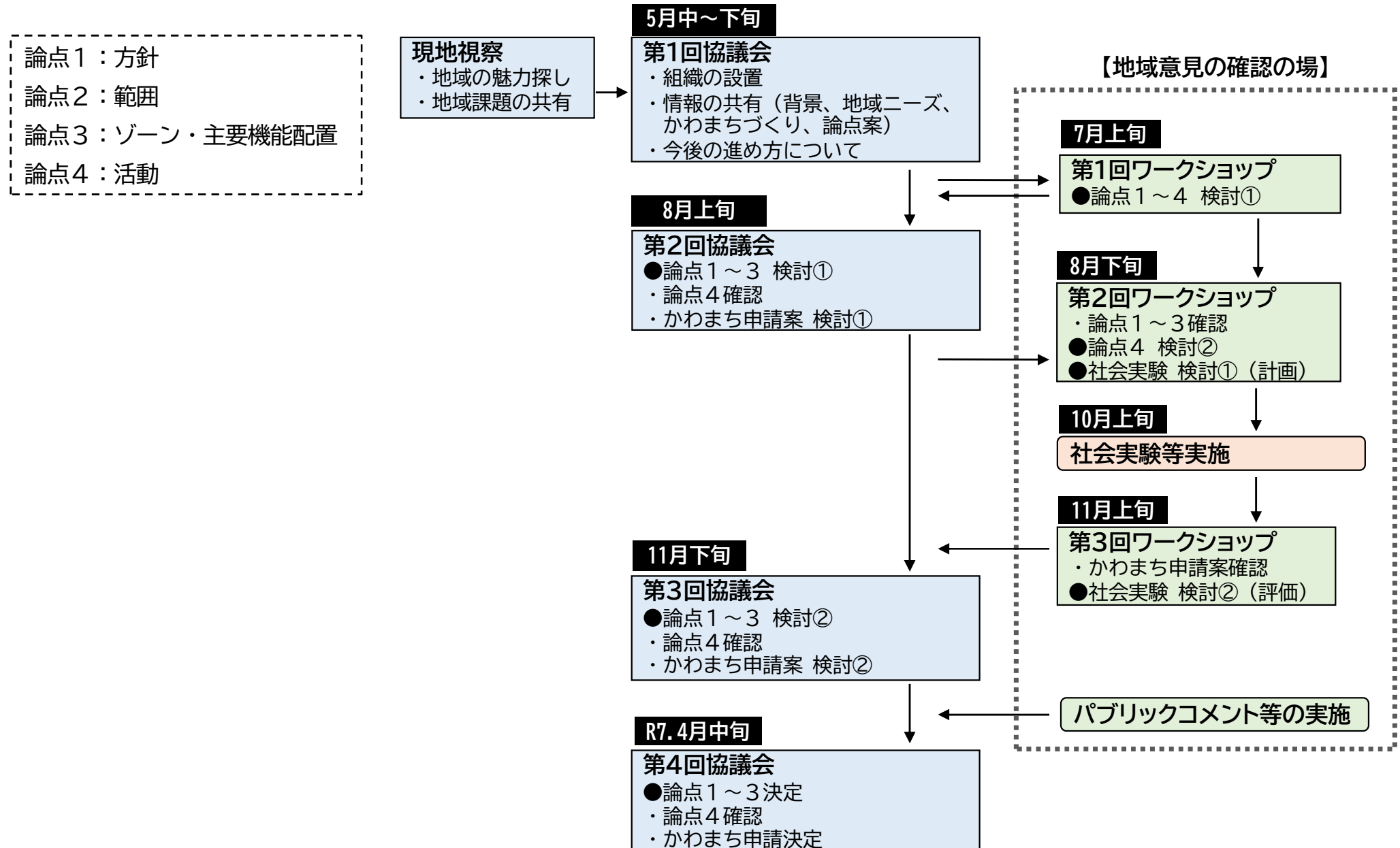
論点4：活動の展開

- ・論点2の範囲で、どのようなかわまちづくりの活動を展開するか。



4) 検討プロセス

➤ 協議会とワークショップの検討プロセス





熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ 情報共有その2（事前ヒアリングの結果）



令和6年7月

熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ 事務局

1.利用状況について

1.利用状況について(全体図)



計画地周辺の主な利用状況

[illegible]

1.利用状況について (1)荒川緑地、高水敷全般

表1 荒川緑地、高水敷全般の状況



項目	現地状況、魅力、利用状況
現地状況 (高水敷)	・ラグビー場1面、運動広場4面、ソフトボール場9面 ・自由広場、いきいき広場、ランニングコース (1周3k m)
魅力	・広いオープンスペース、充実したスポーツ施設、 ・スポーツ文化(熊谷ラグビー発祥地(写真①)) ・緑地や憩い空間(芝生広場、堤防法面の緑) ・過去には周辺に白鳥が飛来
利用状況	・A スポーツ利用：ラグビー利用(練習・予選・大会)、運動部の部活、地元スポーツチームの練習 ・B 休憩・健康づくり利用：写真② 散歩、ノルデック、サイクリング、ラジオ体操等 ・C 地域交流・イベント利用：写真④ 花火大会(観覧スペース、屋台)、過去には子供向けの自然めぐりイベントやチェアリング等に利用していたこともある。 現状、地域利用や子供のイベント利用の対象にはなっていない ・D 教育活動利用：写真③ 小学校の郊外学習(自然学習、持久走大会、社会学習)等 ・E 環境保全活動：広場内の日差しを遮る樹木の保全、ゴミ拾い ・F 緊急・防災利用：消防救急ヘリポート、広域避難場所(地震時)、防災訓練

スポーツ利用



ラグビー利用(練習・予選・大会)
熊谷ラグビーの発祥の地

健康・休憩・交流利用



散歩利用

健康・休憩・交流利用



校外学習利用
(持久走大会)

花火大会の観覧



1.利用状況について (2)水辺・河原



眺望・風景

防災



水辺の眺望（近い）

水位観測所（防災利用）

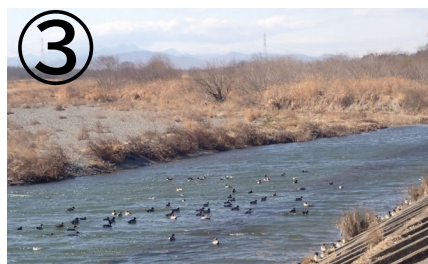


風景（秩父連山の山並み）

表2 水辺、河原の状況

項目	現地状況、魅力、利用状況
現地状況	- 荒川（水辺・水際）、自然環境、荒川大橋 - 水際は、川の流が速いことや、川底までの高低差より、水辺に近づきにくい状況です（親水整備はされていない）。
魅力	- 荒川の水辺と山並みの眺望・風景、水辺の眺望（涼、癒しや憩い空間） - 自然環境、荒川大橋下の日陰（涼） - 荒川に関わる歴史文化（熊谷の暮らしの関わり、治水、利水）
利用状況	A スポーツ・アウトドア利用： 釣り（荒川大橋上流側）。昔と比べて釣り人は減っている。SUPのリバーレースイベントに利用されていたことがある。

自然環境



礫河原と野鳥の飛来



コアジサシ



カワラヨモギ



低水路の可岸に茂る植生

荒川 上下流の自然資源をつなぐ回廊

礫河原：コアジサシ、イカルチドリ（鳥類）、カワラバタ

（昆虫）、カワラヨモギ（植物）

礫底の瀬：アユ・ウグイが生息

礫底の淵：コイ等の大型の魚類

1.利用状況について (3)堤防・堤防上の道路など

02施設の範囲

ソフトボール場

ラグビー場

運動広場

市民いきいき広場

駐車場

緑地自由広場



表3 堤防・堤防上の道路

項目	現地状況、魅力、利用状況
現地状況	・堤防道路(写真①)、堤防・桜堤、いきいき広場、階段(高低差4m程度)、坂路(急勾配) 写真②
魅力	・荒川と山並みによって創り出される風景(写真③) ・桜堤(日本さくら名所100選(日本さくらの会))(写真④)
利用状況	B 休憩・健康づくり利用: 散歩、ランニングやサイクリング等(写真①) C イベント利用:さくら祭り 花火大会(観覧スペース)(写真④・⑤) スポーツ観戦 D 教育活動利用:小学校の郊外学習(自然学習)等(写真⑥)



階段(堤外地側)



階段、急勾配斜路(堤内地側)



堤外側坂路



散歩・サイクリング

桜祭り・花火大会等

眺望・風景



散歩・自転車利用



桜祭りの様子



花火大会の法面利用状況



風景(秩父連山の山並み)

2. 利活用上の課題・ニーズ

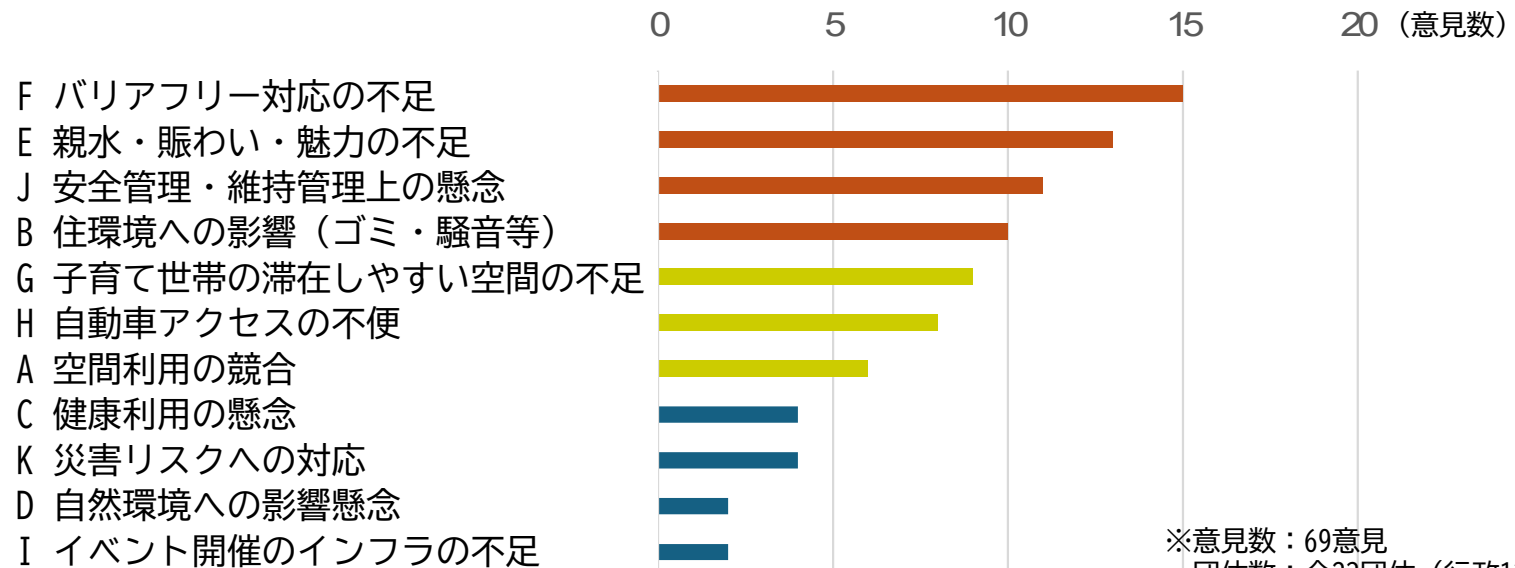
2.利活用上の課題・ニーズ

計画地全般	
意見区分 中	意見概要
イベント利用のための施設の不足	・昔は阪大生大会等のイベントが行われていたが、現在はイベントを行うための備品が高価なため、運び入れる必要がある。
子育て世代が滞在しやすい空間（公園や水辺）の充実	・前川を活かして、子供が水辺で遊ぶ場所や遊べる場所があるように。 ・自転車道の利用促進の存在や高層者のレンタルサイクル等、親が安心して水辺に行けるような工夫をすること。 ・富貴やバーベキュー等が盛りれて、車で来なくても手ぶらで気軽に水辺が楽しめる空間、サービスがあること、子育て世代にとって親しい。
情報発信の不足（魅力・イベント開催）	・情報の森など、水辺の魅力を知ることができる施設があり（市民会館の資源の集約の発信など）。 ・若い人はスマホ等の影響で外出しにくい傾向があり、イベントへの参加はあまりない傾向にある。 ・イベントを支援する遊具は新聞や市報にのせているが、若い参加者は集まらない。
堤防、堤防上の道路、坂路、階段	
堤防（バリア）により、まち側から河川空間へアクセスしづらい	・堤防が川側に行くにつれて高くなる。特に高齢者は自転車での堤防の乗り降りが困難になる。
坂路が危険（狭い、急坂、急カーブ）（自動車・歩行者（車いす）・自転車）	・自転車で堤防に川側に降りる坂路が少なく、階段横のスロープで下りる等、安全な自転車利用（子供や高齢者など）ができない状況にある。 ・坂木小学校のところに急な坂路は車で出入りが少し怖い。
坂路が少なく、堤防上や高水敷へのアクセスが不便（自動車・歩行者・自転車）	・坂路が少なく堤防上や川沿いへのアクセスが悪い。アスファルトなどで整頓されておらず上りづらい。 ・連続の勾配川岸へのアクセスは遠くで不便（坂木小学校の坂路）、また坂路の連続勾配で車椅子では移動が困難になる。 ・前川へ坂路付の上り手が秋葉山より堤防が容易にできないため、計画上は必要になりそう。
坂路が危険（狭い、急坂、急カーブ）（自動車・歩行者（車いす）・自転車）	・前川上流より西側にはソフトボール場などたくさんグラウンドがあり、毎週末大会が行われている。大会がある日には10台以上は大会利用があり、坂路が狭く、車椅子の移動が困難になる。大会で利用されている坂路があるところが多い。車や大型バスへの利用が多い。
イベント後の法面、坂路の状況劣化、復旧	・祭り後の法面法路には、観客がシートの上に使用したものが残っており、降参や雨風に剥がれる。
災害リスクへの対応（堤防整備（嵩上げ・拡幅））	・祭り後の堤防法路には、祭りの車の車輪の走行により、道車が凹み口になっている。 ・堤防崩壊には警戒があり、盛土にあつては事前が必要。 ・洪水対策には、水が川岸（令和元年台風）したときにはかなり危険である。 ・堤防対策には堤防の土が落ちており、落ちてきたところがあるの土が崩壊している。
堤防の維持保全 桜道と堤防管理の両立	・近年桜道と堤防を一緒に管理することができているが、桜の記は遊歩道上に壊すまで書きだすため注意が必要である。 ・カミキリムシにより堤防の維持が大変である。
川、河原	
安全に利用できる観水 水辺が整備が不十分で、水辺に近づきにくい	・川に比べ水辺と河原の高差が大きくなり水辺に近づきにくいになっている。また、石が少なくなっており水辺の遊も難しい。 ・川があるが、市民はあまり川に行かず、釣人が数人大橋の下に行っているくらいである。 ・浅瀬など、体の不自由な人や子供連れの安全に水辺に親しめる場所になっている。釣りも安全にできない。
駐車場	
河川空間に近い駐車場 の不足	・市民や近隣向けイベントの駐車場確保が重要であり、計画地は駐車場が少ない。 ・観光期間内で来場者が分散するが、掲載期と土日が多い。現在駐車場に入らざる人々のペラのみのためがグラウンド内にあるスポーツ用品が少なくある。 ・河川沿いの駐車場として活用しており、土日はほぼ満席となる。 ・高水敷河原には、一般車向け駐車していることが状況。
いきいき広場	
いきいき広場のアクセス	・いきいき広場は人通りはあるが、アクセスが不便で利用しづらい。
自由広場、ラグビー場（有料）、グラウンド	
多様な利用の統合（スポーツ、休養・交流利用、ペットの散歩）	・自由広場を利用する人の中には、犬の放し飼いやによる危険とスポーツ、犬利用に迷惑感を感じている人もいる（地域利用とスポーツの利用の共有の課題）。 ・スポーツグラウンドのその他の用途との両立は難しい。現在在野チームに入らざる人々のペラのみのためがグラウンド内にあるスポーツ用品が少なくある。 ・スポーツグラウンドの利用状況によっては、現在利用している団体の意見に前向きな姿勢がある。

[illegible]

2.利活用上の課題・ニーズ(意見概要別)

利活用上の課題・ニーズ	意見数
A 空間利用の競合	6
B 住環境への影響（ゴミ・騒音等）	10
C 健康利用の懸念	4
D 自然環境への影響懸念	2
E 賑わい・魅力の不足	13
F バリアフリー対応の不足	15
G 子育て世帯の滞在しやすい空間の不足	9
H 自動車アクセスの不便	8
I イベント開催のインフラの不足	2
J 安全管理・維持管理上の懸念	11
K 災害リスクへの対応	4



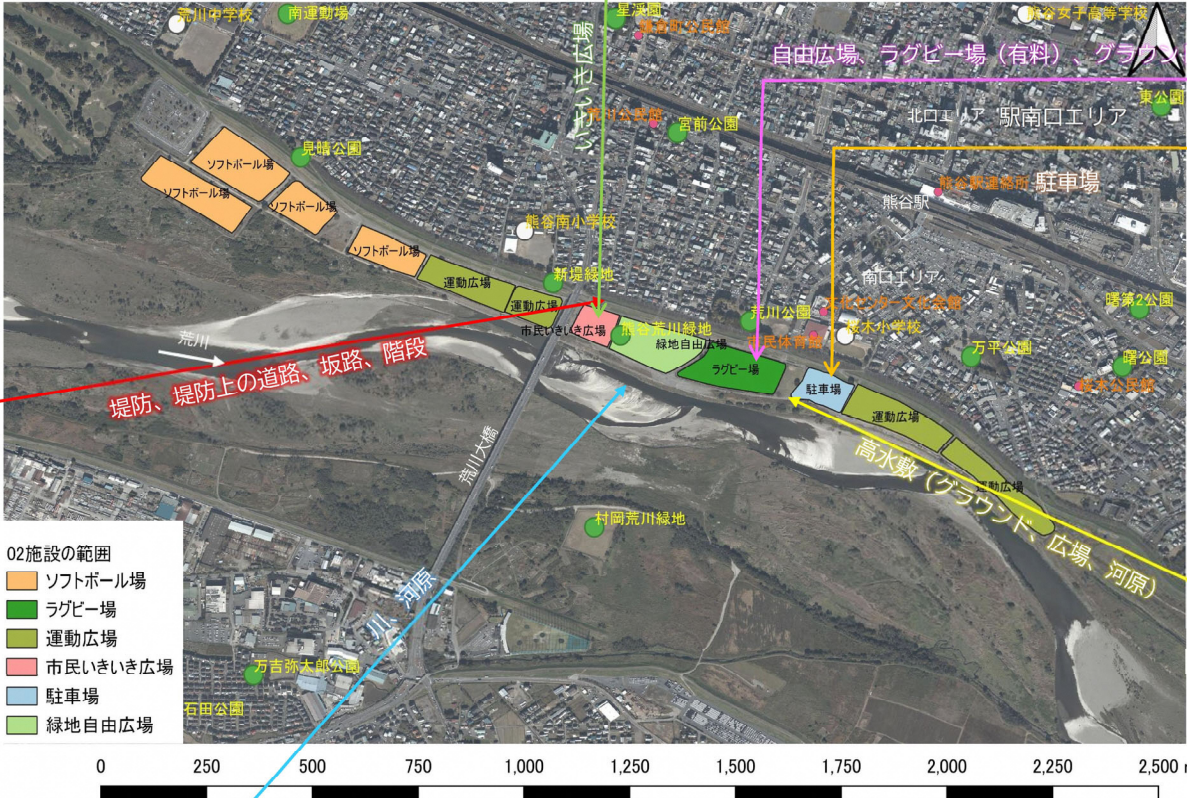
※意見数：69意見
団体数：全23団体（行政12、キーマン11）

2. 利活用上の課題・ニーズ（意見の対象場所ごと整理）

場所	課題・ニーズ等	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
計画地全般	・ イベント利用のための施設の不足（備品庫）									○		
	・ 子育て世帯が滞在しやすい空間の不足 （水辺で遊ぶ・涼む場所、自転車利用環境の不足、荷物による移動負担）							○				
	・ 情報発信の不足（魅力・イベント開催）					○						
荒川緑地、高水敷	・ 多様な利用の競合（スポーツ、休憩・交流利用、ペットの散歩利用）	○				○						
	・ 住環境への影響の懸念 （騒音問題・ゴミ問題・禁止されているBBQ利用者によるゴミ放置）		○									
	・ 夏場の熱中症被害の懸念（広い高水敷の日除けや水場等の不足）			○								
	・ バリアフリー環境の不足（段差、砂利、バリアフリー未対応施設 （観覧席、トイレ、駐車場）						○					
	・ 自然環境の保全、子供の自然学習の場・機会の減少				○			○				
	・ キッチンカー等の民間サービスの誘致の設備の不足									○		
	・ イベント時の安全管理の懸念（人混みで緊急車両のアクセス困難）										○	
駐車場	・ イベント時の駐車場の不足								○			
いきいき広場	・ アクセス不便（いきいき広場へのアクセス不便、河川空間に近い駐車場の不足）						○	○	○			
水辺・河原	・ 安全に利用できる親水護岸が整備が不十分で、水辺に近づきにくい （体が不自由な人や子供の利用や釣り利用の安全面への懸念）					○	○	○			○	
堤防・堤防道路	・ 堤防（バリア）により、まち側から河川空間へアクセスしづらい						○					
	・ 坂路が危険（狭い、急坂、急カーブ） （自動車・歩行者（車いす）・自転車）						○	○	○		○	
	・ 坂路が少なく、堤防上や高水敷へのアクセスが不便						○					
	・ イベント後の法面、坂路の状況劣化、復旧										○	
	・ 災害リスクへの対応（堤防整備（嵩上げ・拡幅））											○
	・ 桜堤の維持保全、桜堤と堤防管理の両立					○					○	○
周辺のまち空間	【荒川公園再整備事業との連携】											
	・ 荒川公園と荒川緑地の間に堤防（バリア）があり、アクセスしづらい。						○					
	【駅南口エリアのまちづくりとの連携】											
	・ イベント時の歩行者交通の集中による混雑の懸念										○	
	・ かわまちエリアから駅北の中心市街地を結ぶ鉄道アンダーパス部の治安面の問題と川に誘う道の景観づくりの不足					○					○	
	・ 低未利用地が多く、店舗が少なく、歩きたくする目的地や、来訪の魅力が少ない					○						
合計	・ 駅の子椅子利用が不便						○					
	意見数（意見）	6	10	4	2	13	15	9	8	2	11	4

3.かわまちづくりについて

3.かわまちづくりについて

[illegible]

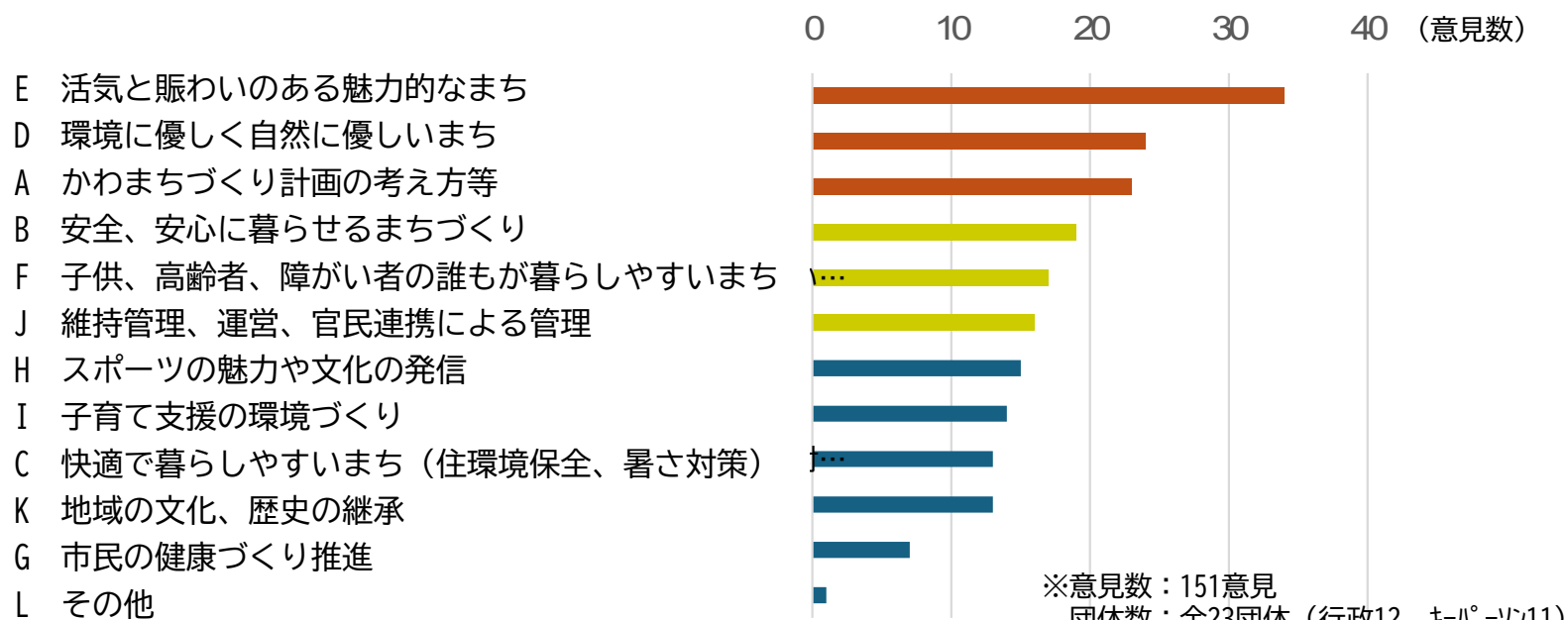
駐車場		意見図上の 該当箇所
意見区分 中	意見概要	
・高水敷地内への駐車機能の 充実	・月川散放路の車通車と駐車容量の確保 ・駐車場に隣接する農家の集まりが滞り止への 懸念	
・復建の確実対策への配慮	いざという広延度 ・引川敷地の高水敷の未達を防止するための余裕を 設けたところなど	
自由広域	ラグビー場（有料）、グラウンド ・スポーツ以外を含め、イベント需要を把握し、 必要なスペースを確保できること ・駅近であるラグビー場で遊べる。ラグビー会場 から立ち回れやすいと喜ばれていた ・ラグビー場（有料）は、ラグビー場としての 価値を保つ観点から一般利用に置きしたい ・無料の緑地施設に、大規模なイベント等として 考えられる ・ラグビー場一帯のあり方は、旧川原崎の復興計 画に大きな影響がある可能性がある	
自由広域のイベント利用		
高水敷全館（グラウンド、広域、両側）		
・散歩コースとしての魅力 の充実	・富士山の見える久々公園のふもとまでながった 遊歩道、奥旗、トイレ、水道等の体験施設が あること ・手軽なアウトドアが楽しめる施設があると よい ・何らかのバーベキューができることで市民に 親しまれること ・バーベキューのニーズは非常に大きく、開 けられたいものが多い ・近隣の公園で利用できるループに準じたバー ベキュー 利用ができると良い ・バーベキュー場や夜間でも使える遊歩道があ るといい。しかし、照明が必要になり利用し やすいため、エリアとして利用可能範囲を区 画整理すると良いと思う ・バーベキューと 연계した場合は施設管理、 清掃関係等を考えるよりルール決めが必要で ある ・バーベキュー許可をするのであれば、軽食や ゴミのポイ捨てが懸念されるので、BGMの 禁止の要があり、万が一で管理する必要がある ・バーベキュー場の整備はゴミの問題が懸念 される。過去にコアサシナの事例が破談され ていることもあった ・雑草に車が入れると保護措置につながらな くなる ・またおむちを借り入れ、人が集まる場所を にするためには、若者が気軽に立ち降りる場 所や、行き来しやすいようなデザインが必要 だとあるという（川原崎遊歩道オープンカ フェなど）	
・高水敷地内の魅力の充実 （アウトドア・バー ベキュー）		
・高水敷地内の魅力の充実 （四季を彩る花）	・桜の手前辺りに咲く花を鑑賞しようとか ・イベント利用のニーズはあるが、次回開催 は必要に応じて決まると良い ・人が集まるイベントであれば、キッチン カー出店 のニーズはある ・キッチンカーの誘致には賛成されている 広いところがある ・火気大気の燃焼等の拡大、消防設備の整 備、アクセスの確保、遊歩道と歩道のス ペースの確保 ・駐車場スペース、電源、トイレ、遊歩道 の適切な整備が必要で、イベントがやり やすい ・約10分程度のイベントをしていく感じの ものがあると良い ・イベント時の音響による住環境への影響 への懸念 ・野鳥の西や秋公園でのイベントは行われ ているが、計画的にそこまで自然が多くない ため、ソフト面のイベントを行うと良い ・音楽をやりたい人がいる一方で、静かに 行いたいという人がいて、調整できない ところがある ・聴き手の人々がよく使うような若い人 向け観覧席があることと良い ・子ども利用や老人在来に配慮できるス ペース（乗降など）があることと良い ・本館や芝生を緑豊かな空間とするス ペースを整えてほしいという声もある ・グラウンドの面積により、自由に遊ぶ 空間を作り出せるのではないかと ・小さな子供遊び場へ設置が良いとある こと ・子どもの遊具などのスポーツをする 空間を分けて欲しい。年齢別で対応可能 な「ゾーン」があると良い ・まち中の大きな公園として、子育て イベント広場のような空間があるといい （ニーズがある） ・重要水辺で親子で水遊びできるような 空間ができると良い（小池、川、噴水、 プール等の水遊びができると良い） ・子供が安心して使えるようにベンチに トイレが設置されると良い ・ベビーカー等で移動する上での補助/ 利用する広さを確保して欲しいと考 えている ・自転車利用を促すべく短い、遊歩道 のシンクロナイズして、車で走っても もちろん歩いても安全で快適な環境を、 サービスエリアであると、子育て世 代にとって欲しい その他 ・小学校前の交通安全の懸念 ・花火大会時の周辺生活道路の混雑を 緩和したい ・かわまちづくりにより増加する自動 車交通や駐車需要への対応 ・元川児童館の並木の保全 ・備品倉庫の確保	
・高水敷地内の魅力の充実 （イベント利用の推 進）		
・音楽利用（練習等）		
・体が自由な人にも配慮 した花火等の観覧環 境の充実		
・体験施設の充実と案内 の充実		
・ユニバーサルデザイン のスポーツ環境づく り		
・子供の遊び場の充実		
・親子で手軽に遊びに行 ける工夫		

11

(注) 赤字：留意事項、懸念点

3.かわまちづくりについて(意見概要別)

かわまちづくり計画について	意見数
A かわまちづくり計画の考え方等	23
B 安全、安心に暮らせるまちづくり	19
C 快適で暮らしやすいまち（住環境保全、暑さ対策）	13
D 環境に優しく自然に優しいまち	24
E 活気と賑わいのある魅力的なまち	34
F 子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち	17
G 市民の健康づくり推進	7
H スポーツの魅力や文化の発信	15
I 子育て支援の環境づくり	14
J 維持管理、運営、官民連携による管理	16
K 地域の文化、歴史の継承	13
L その他	1



3.かわまちづくり(計画地全般)

項目	かわまちづくり計画への意見	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	意見数
計画地全般	■計画の考え方 ・市全体の一体性、熊谷の荒川ならではの魅力、利用者目線の計画づくり、まちへの効果の波及を考える、自然や風景を活かした空間づくりが重要。 ※土地利用規制、地域活性化と住環境保全の両立 ※かわまちによって、地域利用に制限が厳しくなるのは困る。	○										○		8
	■計画範囲 (別紙参照)	○												8
	■計画づくりの進め方 ・段階的な整備より充実していく進め方が良い、計画づくりへの市民参加促進、市民意見把握の充実、広報の工夫、デジタル技術を活用し、市民意見分析の客観性向上	○												7
	■検討の視点													
	・防災教育、防災機能の充実(水災害の自分事化、河川の危険性を理解する場として活用) ※バリアフリー経路の確保		○											5
	・暑さに配慮した計画づくり			○				○						1
	・住環境の保全と賑わい創出の両立の視点			○		○								2
	・水辺及び高水敷の自然環境の保全、活用(環境学習、学校連携) ※過去に国と設定した環境配慮に関わるゾーニングと環境配慮の方針を踏まえた計画とすること				○					○				4
	・眺望、風景との調和、保全				○									1
	・水辺に親しむ空間づくり					○								1
	・河川敷地内の魅力の充実					○								3
	・休憩拠点の充実					○								1
	・ユニバーサルデザインの空間づくり、スポーツ環境づくり						○		○					1
	・ペットとの触れ合いの魅力の充実(ドッグランがあると良い)							○	○					1
	・新スポーツ文化連携拠点機能の充実							○	○			○		2
	・ラグビーのスポーツ文化を活かした計画づくり								○			○		1
	・子育て世代が滞在しやすい空間の充実									○				1
	・河川空間の管理への官民連携、市民参加の推進の視点										○			3
	・台風襲来時や出水後の対応(方法、体制) ※出水後の河川敷の流木撤去等の復旧の体制の検討が必要		○								○			2
	・イベント利用時の支援のしくみ ※労力がかかる部分の支援の仕組み										○			1
	・かわまち応援意見												○	1
その他	・小学校周辺の生活道路の安全性確保		○											1
	・花火大会時の周辺道路の混雑緩和			○										2
	・荒川児童館の並木の保全				○									1
	・イベント時用の備品倉庫の確保										○			1
	意見数	23	7	4	7	5	4	3	3	3	6	4	1	51

(※黒字は提案意見、赤字は懸念のご意見を示す)

3.かわまちづくりについて(荒川緑地、高水敷)

項目	かわまちづくり計画への期待	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	意見数
荒川緑地、高水敷	・散歩コースとしての魅力の充実 (富士山が見える遊歩道、東屋、トイレ等の休憩施設の充実)					○		○						1
	・荒川緑地・高水敷の魅力の充実(アウトドア、バーベキュー、花火、カフェ)					○								6
	※管理方法やルールを決める必要がある (安全・ゴミ・騒音・環境への影響)。			○	○						○			4
	・荒川緑地・高水敷の魅力の充実(四季を彩る花)					○								1
	・荒川緑地・高水敷の魅力の充実(イベント利用の拡大、施設の充実 音楽利用等のルールづくり、官民連携)					○					○			6
	※キッチンカー誘致を考慮した施設整備(舗装された広い空間、アクセス路の確保)					○								1
	※イベント時の音響による住環境への影響の懸念			○										1
	・ユニバーサルデザインの世界づくり(花火大会の観覧、スポーツ観戦等、スポーツ環境)						○	○	○					2
	・子供の遊び場の充実(自由に遊べる空間、遊具、東屋・多目的トイレ・夏場の水辺(プール、噴水等))						○			○				7
	・親子で手軽に遊びに行けるサービスの充実、工夫									○				1
いきいき広場	・自由広場を活用した一般利用・イベント利用の拡大					○			○					3
	※ラグビー場(有料)の一般利用は困難、残してほしい ※ラグビー場のあり型は、荒川堤防の将来計画を踏まえる必要がある											○		1
いきいき広場	・夏場の暑さ対策への配慮(いきいき広場 木陰を活かした涼める場所)			○										1
駐車場	・高水敷地内の駐車場機能の充実								○					1
	※駐車場整備による夏場の暑さが増すことへの懸念			○										1
意見数(意見)		0	2	6	4	21	4	2	5	8	5	4	0	37

(※黒字は提案意見、赤字は懸念のご意見を示す)

凡例 意見区分(まちづくり施策分野)

A: かわまちづくり計画の考え方等
 B: 安全、安心に暮らせるまちづくり
 C: 快適で暮らしやすいまち(住環境保全、暑さ対策)
 D: 環境に優しく自然に優しいまち
 E: 活気と賑わいのある魅力的なまち
 F: 子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち

G: 市民の健康づくり推進
 H: スポーツの魅力や文化の発信
 I: 子育て支援の環境づくり
 J: 維持管理、運営、官民連携による管理
 K: 地域の文化、歴史の継承
 L: その他

3.かわまちづくりについて（水辺・河原）

項目	かわまちづくり計画への期待	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	意見数
水辺・河原	・川と親しめる親水空間の魅力の充実と水辺の安全対策の充実 （河原沿いを歩ける遊歩道等） ※荒川の河川特性を踏まえ利用者の安全対策に十分留意が必要		○			○		○						1
	・自然学習、体験の場の保全や充実、学校連携の視点		○							○				1
	・水辺の自然環境の保全と活用の両立 ※水辺の樹木の保全が必要、礫河原の保全が重要				○									1
	・水辺の魅力の充実（夏に涼める空間、釣りなどを楽しむ場、市民の誰もが集まれる場所になると良い）			○	○	○								2
	・子供の川遊びや自然との触れ合い機会を充実する環境の充実				○					○				1
	・花火大会の観覧席の充実					○								1
	・荒川の維持管理に必要な機能の確保										○			1
	意見数	0	2	1	4	2	0	0	0	2	1	0	0	10

（※黒字は提案意見、赤字は懸念のご意見を示す）

凡例 意見区分（まちづくり施策分野）

A：かわまちづくり計画の考え方等
 B：安全、安心に暮らせるまちづくり
 C：快適で暮らしやすいまち（住環境保全、暑さ対策）
 D：環境に優しく自然に優しいまち
 E：活気と賑わいのある魅力的なまち
 F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち

G：市民の健康づくり推進
 H：スポーツの魅力や文化の発信
 I：子育て支援の環境づくり
 J：維持管理、運営、官民連携による管理
 K：地域の文化、歴史の継承
 L：その他

3.かわまちづくりについて（堤防・堤防道路）

項目	かわまちづくり計画への期待	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	意見数
堤防・堤防道路	・高水敷へのアクセスの安全性向上（バス利用）			○										1
	・イベント時のゴミ、騒音、路上駐車の問題の解決		○	○										1
	・自然学習、体験の場の保全や充実、教育活動利用の充実（堤防法面の自然環境の保全）				○					○				1
	・荒川及び高水敷の自然環境の保全と創出 ※コンクリート製の階段式護岸等の整備を実施する場合は、地域の環境団体等への説明及び代替措置の検討が必要 ※環境保全上は、コンクリート製護岸による堤防被覆を避け、在来野草を盛土表面に移植するなど、環境に配慮が必要。				○ ○ ○									4
	・堤防の拡幅整備と荒川公園再整備事業との一体的整備による機能充実、賑わい空間の創出（バリアフリー機能充実、体育館、荒川公園と河川敷までの連続した賑わい空間の創出） ※堤内地側の盛土整備による道路への影響、周辺住宅への影響の懸念		○			○	○							5
	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した堤防や階段の拡幅整備等）		○			○								1
	・堤防法面の階段式護岸（観覧席）の整備 ※川側だけでなくまち側にも階段を設けないと、事故の危険が懸念。 ※階段式護岸は、完成堤防での整備が必要		○ ○			○								3
	・子供、高齢者、障がい者の誰もが利用しやすい移動環境の充実						○							6
	・堤防上道路の交通安全対策の充実		○				○		○					1
	・散歩、ランニングコースの魅力の充実、魅力の発信、夜間防犯対策		○					○						2
	・新スポーツ・文化・健康の連携軸の魅力の充実（サイクリングロード） ※サイクリングロードなどの自転車利用環境等を検討するにあたっては歩行者との安全対策に留意する必要がある。		○						○					5
	・熊谷桜堤の保全、継承 ※桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。											○		5
	・堤防及び坂路の維持管理、坂路及び堤防道路の改修（遮熱性舗装、生き物の移動を妨げない舗装）				○						○			4
意見数		0	8	2	9	6	9	2	7	1	4	5	0	39

凡例 意見区分

A：かわまちづくり計画の考え方等
B：安全、安心に暮らせるまちづくり
C：快適で暮らしやすいまち（住環境保全、暑さ対策）
D：環境に優しく自然に優しいまち
E：活気と賑わいのある魅力的なまち
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち

G：市民の健康づくり推進
H：スポーツの魅力や文化の発信
I：子育て支援の環境づくり
J：維持管理、運営、官民連携による管理
K：地域の文化、歴史の継承
L：その他

（※黒字は提案意見、赤字は懸念のご意見を示す）

今後のスケジュール

時期	開催名	検討内容
7月6日(土) (本日)	第1回 ワークショップ	●論点1 (かわまちづくりの方針) ●論点2、4 (計画範囲、活動・活用のアイデア)
8月31日(土)	第2回 ワークショップ	●論点2、4 (計画範囲、活動・活用のアイデア) ●論点3 (ゾーン設定と主要機能配置) ●社会実験でやること
11月上旬予定	第3回 ワークショップ	●社会実験のふりかえり ●論点4 (活動、活動の継続方法) ●かわまちづくり計画申請書(案)について